

第6期

平成28年度

報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード:7022

「原点」に立ち返り、 難局を乗り越え、次代にチャレンジ!

株主・投資家の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

サノヤスは持株会社の下、造船事業を“コア事業”、また陸上事業とレジャー事業を“第2のコア事業”と位置づけ、事業展開を図っています。

現在、造船の事業環境は新造船需給の緩和状態が恒常化し、船価が低迷を続けています。これに対処すべく、当社は新規開発船を順次市場投入するとともに、マリン・修繕船の受注拡大に取り組んでいます。また、陸上・レジャー事業については、事業全体の底上げを目指すとともに成長分野へ積極的な投資を行うことで一層の強化を図っています。

今年度も昨年度に引き続き「原点回帰」をテーマに掲げています。具体的には「安全第一」「最高品質・性能」「コスト競争力」「人財重視の経営」などの原点を確実に実践してまいります。

厳しい環境下であるがゆえに、常に企業としての「原点」に立ち返ることが必要であり、強くしてしなやかで変化対応力に優れた人財とともに、この難局を乗り越え、次代に向けてチャレンジを続ける覚悟を新たにしています。



代表取締役社長 上田 孝

3ポイント

- 1 売上高・営業利益・経常利益は期初予想を上回るも、レジャー事業の特別損失により最終赤字に。
- 2 約3年分の新造船受注残を引き続き確保。一般商船以外にも取り組む他、マリン・修繕船部門は好調を維持。
- 3 陸上・レジャー事業は、事業の選択と集中を進め、成長分野への投資を行い更なる成長を図る。

減収・減益も売上高・営業利益・経常利益は期初予想を上回る

平成29年3月期の連結業績は、売上高が530億64百万円(前期比0.5%減)、営業利益が9億4百万円(同57.4%減)、経常利益が8億63百万円(同50.6%減)となりました。

売上高については、造船事業において水島製造所における新造船の建造を着実に進めた他、改修船や船用LPGタンク製造が好調でした。また、陸上・レジヤ事業においては、遊戯機械販売の伸長等が寄与しました。

利益面については、営業利益・経常利益は黒字を確保しましたが、一昨年にオープンした「ポケモンEXPOジム」(大阪府吹田市)の営業を平成29年9月をもって終了することとし、固定資産の減損処理を含め特別損失を15億44百万円計上しました。また、豪州観覧車において固定資産の減損損失6億52百万円を特別損失に計上しました。これらにより親会社株主に帰属する当期純損失は24億46百万円(前期は2億4百万円の同純利益)となりました。

新造船は3年分の受注を確保

海運・造船業界は、オイルショック、プラザ合意による円高以来、戦後3回目の構造転換期に直面しています。バルクキャリアーの運賃市況は歴史的低迷からは回復したものの、船腹及び製造設備の過剰という



構造が依然として継続し、船価は低迷を続けています。

このような厳しい環境の中、64千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアー2隻と82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー2隻、2,800総トン型カーフェリー1隻の計5隻の受注を獲得し、当期末の新造船受注残は、基本方針である約3年分にあたる23隻を確保しています。

船価の低迷する新造船を補完すべく取り組んできたマリン・修繕船は、平成28年8月に、最新の定点保持装置(DPS)を搭載した自航式多目的船1隻を竣工し引き渡した他、修繕船や水島製造所での改修船、船用LPGタンクの製造等が好調を維持しています。

また、水島製造所及び大阪製造所のドックゲートの更新を行うなど、計画的な設備投資も行っています。

「第2のコア事業」の更なる強化を図る

陸上事業では、近年力を入れてきた機械式駐車装置のリニューアル工事関係の受注が好調であった他、国内トップクラスの化粧品等の乳化装置・攪拌機製造については、新たな分野の市場開拓も視野に入れて昨年11月に新工場を建設し、生産能力の拡大を行いました。更に、精密機械部品を手掛ける2社を統合し、会社の運営効率化、経営安定化及び技術力の強化を目指すとともに、新規事業として立ち上げたボラード(テロ対策用車止め装置)販売は、その成果を上げつつあります。

レジャー事業では、国内向けの遊戯機械販売及び遊園地運営において、熊本地震による減収影響はあったものの、前年度対比増収となりました。また、本年5月より、沖縄県(北谷町)において新たに観覧車運営を受託しております。今後は、九州地区の復興に伴う需要増を吸収して、更なる伸長を図ります。

「原点回帰」で難局に打ち勝つ

主力の造船事業は引き続き難しい局面が続くことが予想されます。しかし、如何なる経営環境であっても、企業としての基本である「原点」を忘れないこと、そして次の時代へ向けてチャレンジを続けることが大事であると考えています。中でも「人財」については、「企業は人なり」が私の信念であり、「次代の人づくり」

が、企業の技術力や現場力の向上につながると考えています。

なお、同じく原点の一つである「安全」を徹底するために、グループ内の安全を掌る全社横断的な組織として、当社内に「ものづくり・安全推進部」及び「中央安全委員会」を設置しました。また、主力工場である水島製造所に「安全体感教室」を設置し、既に協力会社を含む数百名の役員が安全体感教育を受けるなど、安全推進に取り組んでいます。



安全体感教室(サノヤス造船㈱ 水島製造所)

次期の連結業績見通しにつきましては、売上高470億円、営業利益3億円、経常利益2億円、親会社株主に帰属する当期純利益1億円を見込んでいます。

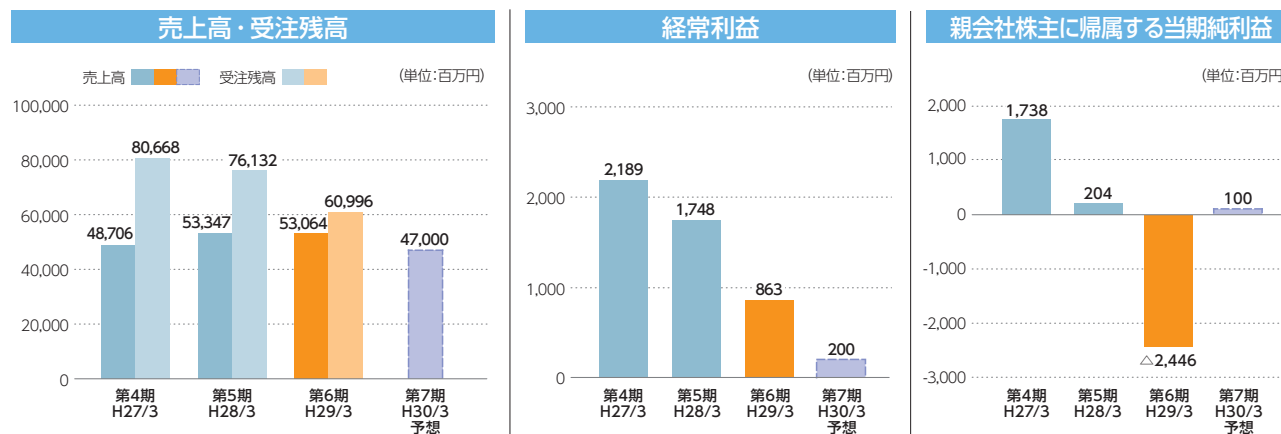
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

(単位:百万円)

	第4期	第5期	第6期	前期比
	平成27年3月期	平成28年3月期	平成29年3月期	増減額/増減率
経営状態				
売上高	48,706	53,347	53,064	△0.5%
営業利益	2,270	2,121	904	△57.4%
経常利益	2,189	1,748	863	△50.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,738	204	△2,446	—
受注残高	80,668	76,132	60,996	△19.9%
財政状態				
総資産	68,160	70,891	70,562	△329
純資産	18,152	18,954	17,349	△1,605
自己資本比率	26.6%	26.7%	24.6%	△2.1ポイント
1株当たり指標				
当期純利益(円)	53.36	6.29	△75.11	△81.40
純資産(円)	557.18	581.81	532.02	△49.79
配当金(円)	5.0	5.0	5.0	0.0

(注) 受注残高の金額は、工事進行基準で記載しております。



セグメント概況

造船事業

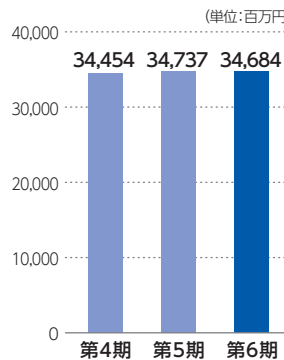
平成29年3月期 **売上高** **346億84**百万円

造船事業においては、新造船需給の緩和状態が恒常化し、船価が低迷を続けている中において受注活動に努めた結果、64千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアー2隻と82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー2隻、2,800総トン型カーフェリー1隻の計5隻の受注を確保しました。一方、新造船の引渡しは、60千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアー5隻、82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー2隻、117千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリアー1隻の計8隻であり、受注残は23隻と、営業方針としている約3年分を引き続き維持しております。また、マリン・修繕船において、平成28年8月に自航式多目的船1隻を竣工し、引き渡しました。

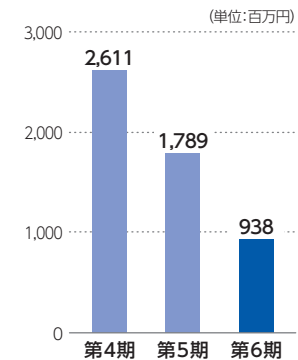


60千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアー(サノヤス造船㈱)

売上高



営業利益



117千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリアー(サノヤス造船㈱)

この結果、マリン・修繕船及びプラントを含めた造船事業の受注残高は工事進行基準ベースで580億21百万円となりました。売上高は、前期比52百万円(0.2%)減少の346億

84百万円となりました。また、営業利益は前期比8億50百万円(47.6%)減少の9億38百万円となりました。

自航式多目的船「AUGUST EXPLORER」竣工 (シップ・オブ・ザ・イヤー 2016「特殊船部門」受賞船)

平成28年8月31日にサノヤス造船株式会社 水島製造所において、東洋建設株式会社向け自航式多目的船を竣工いたしました。本船は定点保持装置により強い潮流や強風時でも船体の向きや位置の保持が可能です。また、500t吊り大型クレーンや広いデッキスペース、3か月程度の外洋作業に対応可能な航海能力を備え、海洋土木作業のみならず海洋調査、海底探査など様々な業務に従事することができます。本船を新たなステップとして営業・設計・製造部門が一体となって一般商船以外の建造にも尽力し、事業強化を図ってまいります。



自航式多目的船

サノヤス造船株式会社 水島製造所のドックゲート更新

平成29年3月30日にサノヤス造船株式会社 水島製造所において、昭和49年の操業開始以来、43年間稼働してきたドックゲートを更新いたしました。新ドックゲートでは、構造・材料・塗装の改良による耐腐食性向上や開閉止時の衝撃を緩和する機構等を加えることでメンテナンスコストの低減と、操作性・安全性の向上を図っています。今後も設備の計画的な更新・改修を行ってまいります。



サノヤス造船(株) 水島製造所新ドックゲート

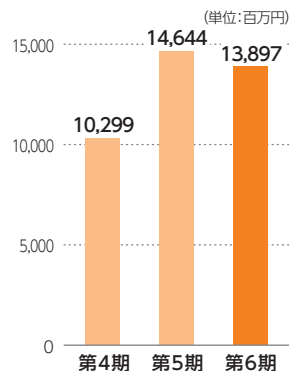
セグメント概況

陸上事業

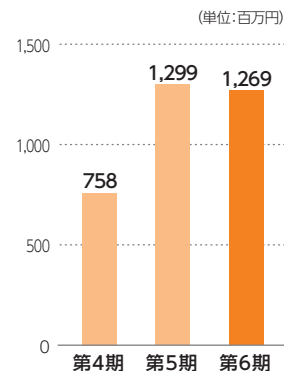
平成29年3月期 **売上高** **138億97** 百万円

建設工事に用エレベーター、機械式駐車装置、機械部品、自動車部品、化粧品用機械、ショットブラスト装置等の製造及び空調衛生給排水設備の設計・施工並びにソフトウェア開発等を主に手掛ける陸上事業においては、機械式駐車装置のリニューアル工事や化粧品用機械製造の受注が好調であったことなど、顧客ニーズに対応した受注活動に努めた結果、受注残高は27億83百万円となりました。また、売上高は前期比7億47百万円(5.1%)減少の138億97百万円、営業利益は前期比29百万円(2.3%)減少の12億69百万円となりました。

売上高



営業利益



(注)平成28年4月から、サービス事業を陸上事業に統合しております。



工所用ラック式エレベーター「HCE-3000BSW」(サノヤス建機株式会社)



ビーコンヒル能見台向け機械式駐車装置(P51型)リニューアル
(サノヤス・エンジニアリング株式会社)

みづほ工業株式会社 新本社工場竣工

平成28年11月2日に、みづほ工業株式会社の新本社工場が竣工いたしました。同社は、化粧品・医薬品製造用の真空乳化攪拌装置を製造しており、特に化粧品向けでは国内トップクラスのシェアを誇っています。本社工場は昭和29年の創業以来半世紀余りが経過し老朽化が進んでおり、生産設備の更新と受注量に見合う作業スペースの確保のため、この度、建て替え工事を行いました。新工場では作業スペースが40%拡大、作業効率が16%改善されたことにより、従来に比べ生産能力が30%向上しています。また、より厳しい工場審査に対応できるようになり、医薬品用の分野にも販路を拡大していくことを見込んでいます。今後も新工場のもと、更なる成長を目指してまいります。



みづほ工業(株) 新本社工場

サノヤス精密工業株式会社 事業開始

平成29年4月1日、サノヤス精密工業株式会社が加藤精機株式会社とケーエス・サノヤス株式会社を吸収合併し、新たな体制で事業を開始いたしました。これまで中間持株会社であるサノヤス精密工業のもと、加藤精機は各種産業機械部品や精密機械部品などの製造、ケーエス・サノヤスは特装自動車部品などの製造を行ってまいりました。ともに精密金属加工を手掛ける両社をサノヤス精密工業に統合し、会社の運営効率化、財務改善による経営安定化、これまで培ってきた技術やノウハウの融合・発展による技術力の強化を図ります。また、本年7月、兵庫県三田市の本社敷地内において、新工場の建設を開始します。更なる製造力の強化によって、より質の高い製品・サービスの提供を目指してまいります。



ユニバーサルジョイント

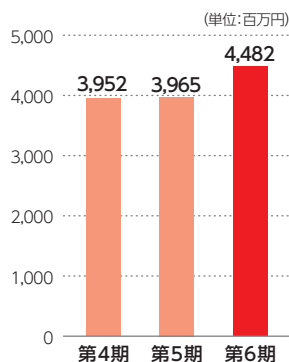
セグメント概況

レジャー事業

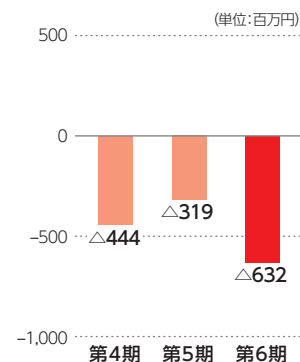
平成29年3月期 **売上高** **44億82**百万円

レジャー事業においては、訪日外国人客の増加への期待の高まりから、国内遊園地の遊戯機械の更新投資を狙い、販売活動を強化した結果、受注残高は1億91百万円となりました。売上高は、熊本地震による減収影響はあったものの、遊戯機械販売の増収と「ポケモンEXPOジム」(大阪府吹田市)が寄与し、前期比5億16百万円(13.0%)増加の44億82百万円となりました。一方、同施設及び豪州観覧車事業の赤字により、営業損失は6億32百万円(前期実績は3億19百万円の営業損失)となりました。

売上高



営業利益



浜名湖パルパル「キャプテンパレオの海賊船」(サノヤス・ライド㈱)



渋川スカイランドパーク「くるくるとんぐり」(サノヤス・ライド㈱)

メルボルン・スター3周年&来場100万人達成

サノヤス・ライド(オーストラリア)が管理・運営を行うオーストラリアメルボルンの大観覧車「メルボルン・スター」が平成28年12月に開業3周年及び来場者数100万人を達成いたしました。これを記念して本年2月26日に現地マスメディアや業界関係者、政治家、著名人及びその家族をはじめとする約350名を招き、記念パーティーを開催し、更なる知名度向上を図りました。メルボルン・スターは地上117mを誇る南半球最大の大観覧車で、オーストラリア国旗の「七稜星」に因んだ7つ星型のスポークで構築されています。そのユニークなデザインとそれを実現した技術力から、オーストラリア国内で多くの賞を受賞しています。メルボルン・スターはメルボルンのシンボルとして親しまれており、これからも安心・安全な運営に取り組んでまいります。



メルボルン・スター

かしいかえんに「観覧車」と「ウォーターショット」がオープン

福岡市の遊園地「かしいかえん」に平成29年3月16日、サノヤス・ライド株式会社が受注・納入した「観覧車」と「ウォーターショット」がオープンしました。同社は国内トップクラスの観覧車納入実績を有しており、同園の先代観覧車も同社製でしたが、老朽化による新替にあたり、引き続き同社に発注いただきました。新しい観覧車は、同園の花畑をイメージさせる爽やかなカラーリングが施され、ゴンドラには国内メーカーと搭載方法を共同開発した高性能エアコンを装備し、搭乗時の快適性も一層向上しています。また、ウォーターショットは乗り物に装備された水鉄砲を撃ちながら周回する、子供に大変人気のある遊具です。同園のニーズに応じて設計・デザインしたオリジナル仕様となっています。今後も、皆様に喜ばれる楽しい製品を生み出してまいります。



観覧車、ウォーターショット

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成28年度末 (H29.3.31)	平成27年度末 (H28.3.31)
資産の部		
流動資産	44,189	44,948
現金及び預金	18,261	20,155
受取手形及び売掛金	21,646	19,981
商品及び製品	219	240
仕掛品	1,158	1,139
原材料及び貯蔵品	719	739
繰延税金資産	34	36
その他	2,169	2,674
貸倒引当金	△20	△19
4 固定資産	26,373	25,942
有形固定資産	16,696	18,177
建物、ドック船台及び構築物	7,305	7,158
機械装置、運搬具及び工具器具備品	4,069	5,773
土地	5,011	5,031
建設仮勘定	310	215
無形固定資産	1,007	1,169
投資その他の資産	8,668	6,596
投資有価証券	6,140	4,973
長期貸付金	476	352
繰延税金資産	215	229
退職給付に係る資産	253	243
その他	1,606	831
貸倒引当金	△23	△35
資産合計	70,562	70,891

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成28年度末 (H29.3.31)	平成27年度末 (H28.3.31)
負債の部		
流動負債	30,919	29,500
支払手形及び買掛金	10,553	10,691
短期借入金	4,730	3,680
1年内返済予定の長期借入金	3,845	4,625
未払法人税等	573	131
前受金	3,825	5,952
賞与引当金	459	481
保証工事引当金	127	196
2 受注工事損失引当金	2,813	1,471
その他	3,989	2,268
4 固定負債	22,293	22,435
長期借入金	14,303	14,262
リース債務	1,062	1,333
繰延税金負債	2,367	2,027
固定資産撤去費用引当金	—	164
退職給付に係る負債	4,063	4,078
資産除去債務	445	490
その他	51	78
負債合計	53,212	51,936
純資産の部		
株主資本	14,875	17,486
資本金	2,538	2,538
資本剰余金	727	727
利益剰余金	11,616	14,226
自己株式	△6	△5
その他の包括利益累計額	2,454	1,467
その他有価証券評価差額金	2,896	2,099
繰延ヘッジ損益	34	69
為替換算調整勘定	△71	△112
退職給付に係る調整累計額	△405	△588
新株予約権	18	—
非支配株主持分	0	1
1 純資産合計	17,349	18,954
負債及び純資産合計	70,562	70,891

連結損益計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成28年度 (H28.4.1 ~H29.3.31)	平成27年度 (H27.4.1 ~H28.3.31)
売上高	53,064	53,347
売上原価	47,166	46,242
売上総利益	5,897	7,105
販売費及び一般管理費	4,993	4,983
営業利益	904	2,121
営業外収益	357	264
営業外費用	398	637
2 経常利益	863	1,748
特別利益	—	531
特別損失	2,423	1,723
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△1,559	556
法人税等合計	887	351
当期純利益又は当期純損失(△)	△2,447	204
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△2,446	204

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成28年度 (H28.4.1 ~H29.3.31)	平成27年度 (H27.4.1 ~H28.3.31)
3 営業活動によるキャッシュ・フロー	△64	△2,735
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,972	△2,309
財務活動によるキャッシュ・フロー	△128	686
現金及び現金同等物に係る換算差額	58	△12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,106	△4,371
現金及び現金同等物の期首残高	19,408	22,812
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	966
現金及び現金同等物の期末残高	17,301	19,408

ポイント

① 純資産・自己資本比率

当期末の純資産は、前期末対比16億5百万円減少し、173億49百万円となりました。また、自己資本比率は前期末対比2.1ポイント下がり、24.6%となりました。

② 経常利益・経常利益率

経常利益は受注工事損失引当金を13億42百万円積み増した結果、前対比8億85百万円減少し8億63百万円となり、経常利益率は前期比1.7ポイント低下の1.6%となりました。

③ 営業活動によるキャッシュ・フロー

新造船引渡しの期ずれによる売上債権増加・前受金の減少等の減少要因が減価償却・減損損失の増加等の増加要因を上回った結果、前期から改善したものの、64百万円の支出となりました。

④ 固定長期適合率

前向きな設備投資を行い、固定資産が増加した結果、固定資産の資金調達安定性を表す固定長期適合率が前期比3.9ポイント悪化し66.6%となりましたが、60%台を維持しています。

会社情報

■ 会社概要 (平成29年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	平成23年10月3日
資本金	25億3,800万円
従業員	従業員数 52名 連結ベース 1,803名 平均年齢 39.9歳
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
東京支社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番3号
東京中央支社	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番1号

■ 株式情報 (平成29年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,600,000株
	株主数	8,458名

大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	サノヤス共栄会	3,096,400	9.50
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
	株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
	ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
	三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
	住友商事株式会社	1,000,000	3.07
	住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
	新日鐵住金株式会社	844,800	2.59
	三井住友信託銀行株式会社	650,000	2.00
	伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	564,000	1.73

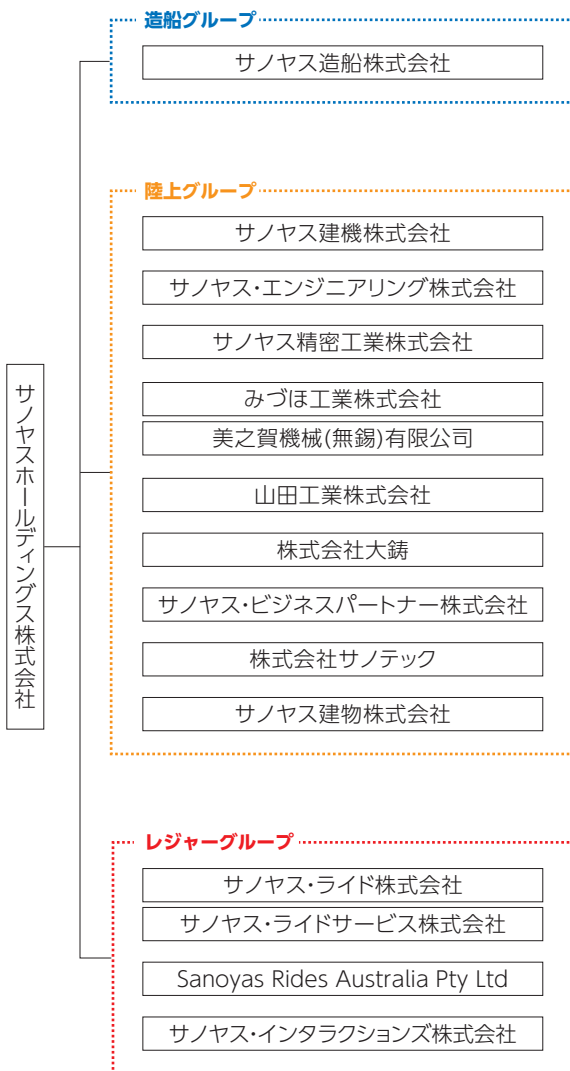
(注) 持株比率は、自己株式(22,598株)を控除して計算しております。

■ 役員一覧 (平成29年6月23日現在)

代表取締役社長	上田 孝	取締役 中藤 達志	執行役員 八木 俊輔
代表取締役専務執行役員	山本 周平	取締役 伊達 章人	執行役員 多田 勤
代表取締役専務執行役員	北川 治	取締役 谷口 哲郎 [※]	常勤監査役 前野 嘉孝
取締役	倉持 貴好	取締役 森 薫生 [※]	常勤監査役 松田 武郎
取締役専務執行役員	松本 裕之	取締役 南 知恵子 [※]	監査役 中尾 誠 [※]
取締役専務執行役員	小島 孝夫	常務執行役員 鷺野 伸	監査役 山田 茂善 [※]
取締役専務執行役員	渡邊 義則	執行役員 西山 昌宏	

※は社外役員を表します。

■ サノヤスグループ一覽



■ 沿革

- 明治44年 4月 — 佐野安造船所創業
- 昭和15年 6月 — 佐野安船渠株式会社 設立 (資本金150万円)
- 42年 6月 — 大阪証券取引所市場第2部上場
- 48年 4月 — 資本金14億3,000万円に増資
- 49年 1月 — 水島造船所操業開始
- 49年 2月 — 大阪証券取引所市場第1部上場
- 59年 8月 — 株式会社サノヤスに社名変更
- 平成 2年10月 — 株式会社サノヤスと菱野金属工業株式会社が合併
- 3年 4月 — 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 19年 3月 — 資本金25億3,800万円に増資
- 23年 4月 — 創業100周年を機にコミュニケーションネームとして
「Sanoyas」を設定
- 23年10月 — 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス
株式会社設立
- 24年 1月 — 持株会社 サノヤスホールディングスと事業会社による
新組織体制をスタート
- 25年 7月 — 東証と大証の現物市場の統合にともない東京証券取引所
市場第1部上場
- 25年 7月 — Sanoyas Rides Australia Pty Ltd 設立
- 26年 8月 — サノヤス・インタラクショングループ株式会社設立
- 26年12月 — サノヤス精密工業株式会社設立
- 27年 3月 — 株式会社大鋳を買収
- 28年 4月 — サノヤス商事株式会社がサノヤス安全警備株式会社及び
サノヤス産業株式会社と合併し、サノヤス・ビジネスパー
トナー株式会社に社名変更
- 29年 4月 — サノヤス精密工業株式会社が加藤精機株式会社及びケーエ
ス・サノヤス株式会社を合併

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-782-031
(平日午前9時~午後5時)

(インターネットホームページ)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

